

も「北海道新幹線建設促進小樽期成会」に改称し、小樽に設置される駅の周辺開発や新幹線がもたらす経済効果等、新幹線駅及び周辺地域の有効活用策の検討、市民への啓発活動を強化しました。

また、2013年には新小樽(仮称)駅に全列車を停車させることを目標とした「北海道新幹線の有効活用についての提言書」をとりまとめ小樽市に提出、大規模駐車場の整備や交流人口・定住人口の増加策、新幹線駅と現在の小樽駅を結ぶ交通アクセスの整備など、小樽の地域振興を目的とした新幹



線駅周辺のまちづくりを進めるよう提言、要望しました。

現在、小樽駅や南小樽駅構内の横断幕、ホームページなどによる啓発活動のほか、小・中・高校生にも新幹線が小樽にやってくることを楽しく知るマンガを制作するなど、これからも市民に新幹線をもっと知ってもらうための啓発活動を強化していきます。

小樽市では

小樽市では、2012年、新幹線のトンネル工事が着工したことを受け、2015年度に「新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画策

定会議」を設置、駅を最大限に活用した、魅力あるまちづくりを進めていくため、駅周辺地域の整備に向けた指針や、官民が連携した取り組み等について検討、昨年3月に「北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画」を策定しました。

1969年の新幹線誘致活動開始以降、当所は小樽市とともに活動を推進してきましたが、残念ながら同会議に参画することが出来ませんでした。

同計画では、今後、官民連携組織を設置し、積極的に事業を進めていくことになっていきます。小樽を発展させるため、オール

【提言書】(概要) 北海道新幹線の有効活用についての提言 (抜粋)

【6つの着眼点】

- I 新小樽(仮称)駅と小樽駅及び小樽港をできる限り短時間で結ぶ。
- II 新駅舎の有効活用を考える。
- III 高速道路を活用した二次交通を充実させ、駅前広場からバス・タクシー・送迎車などの利便性の快適化を図る。
- IV 少ない土地に効率の良い駐車場を整備する。
- V 周辺自治体への業務・観光の中継基地化を図るため、市内外と新駅の利便性を高めるアクセス道路等の整備を行う。
- VI 定住人口増加を目指し、将来の新幹線通勤を想定した住宅地の提供を行う。

小樽で取り組んでいきたいと考えています。

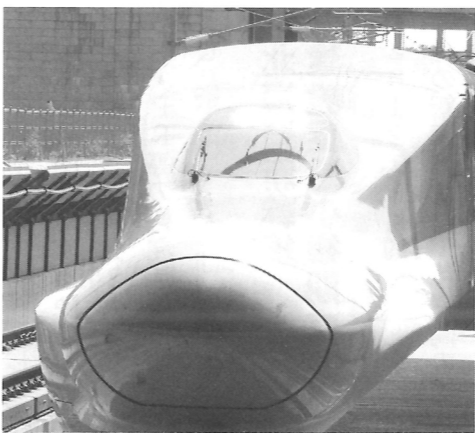
札幌冬季五輪の誘致で 更なる工期短縮も?

現在、札幌市は冬季五輪招致を目指しています。

仮に、開催が決定した場合、北海道新幹線の札幌開業を前倒し、冬季五輪の前年まで工期が短縮される可能性があります。

道外からの大量旅客輸送が必要となるため、工期短縮を北海道、市町村、道内商工会議所等関係機関と連携して国に要請していきます。

北海道新幹線札幌までの一日も早い開業で、道内を訪れる観光客が増え、道内各地への経済波及も



前倒しされるなど、北海道にとって良い効果が期待されます。

これからも、北海道新幹線の工期が短縮されるよう、要望活動と新幹線の周知、新小樽(仮称)駅の有効活用を図るために努力してまいります。

北海道新幹線の新小樽(仮称)駅の駅舎は、今後、官民連携組織を設置して検討することになっていますが、小樽市が策定した「北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画」では、新小樽(仮称)駅の整備計画、方針が次のとおり示されています。

●駅舎デザイン(イメージ)

●歴史的蓄積を持つ小樽の象徴として風格、懐かしさが感じられる空間であること。●多様な人々を迎え、期待感を高める玄関口として、明るさ、開放感が感じられる空間であること。●地域住民が愛着を持てる居場所としての温もり、心地よさが感じられる空間であること。

●付帯施設(想定される機能)

- レンタカー受付
- 観光情報発信施設(案内、インフォメーション端末)
- 魅力発信・多目的空間
- 地域特産品など物販施設
- 物販(コンビニエンスストアなど)及び飲食施設
- コインロッカー

●駐車場

○パーク&ライド駐車場
新幹線を利用するビジネス客や個人旅行、更には、札幌駅などから利用者を呼び込むため、中長期駐車可能な駐車場の確保。

○観光バス駐車場
後志地域等への周遊の起点として、また、札幌駅などから新小樽(仮称)駅へ利用者を呼び込むための駐車場の確保。

○その他

●駅の改札からバス・タクシー等の各交通手段乗り場まで、分かりやすく通りやすい動線の確保●滞留・交流する空間としての駅施設や駅前広場●奥沢水源等地等へ円滑にアクセスできるようサインの配置や西側出入口の設置。